

発行 — 〒992-0039 山形県米沢市門東町1丁目1番72号 九里学園同窓会 事務局 TEL 0238-22-0091 http://www.kunori-h.ed.jp
FAX 0238-22-0092



上杉まつり

5月3日 川中島合戦場に向う一年男子

学園近況

国際化に対応できる学校に

校長 九里 廣志

近年「国際化」が私達の生活に大きな影響をもたらしています。今回のアメリカに端を発した国際経済破綻の日本への影響などは、その代表的な例でしょう。

学園ではこのような国際化の中で、毎年のように海外からの留学生や外国籍の生徒などが在籍するようになりました。今も中国語を母国語とする生徒や東南アジア系の親を持つ生徒は留学生二名を含めて七名もいます。中には日本語が殆ど分からないが、このまま日本で生活しなければならないので…と入学を希望するような場合もあります。彼らには日本で生活する能力をどうしても身につけさせてあげなければなりません。教える側も大変ですが、見捨てる訳にはいきません。

日本語や日本の風習に早く慣れて貰うしかなく、時間が解決することも多いためひたすら待つような事もしばしばです。彼らの、言葉や文化の壁を乗り越えて学ぶ姿勢は真剣です。故に私達が彼らから多くのことを学ぶことも逆に多いのです。

手間隙がかかり大変だからといって、この現実を避けて通ることはできません。学園では、摩擦も含めて異文化を理解し、問題を解決する努力を毎日行っています。

(※ドイツからの留学生も二名います)

記念音楽会

アルパの音色は優しい立体感

奥村愛・上松美香・近藤嘉宏

コンサート

9月12日



「今日は何を着て行こうかな？」私には音楽会の楽しみが二つあります。一つは「おしゃれ」です。日々の生活にメリハリをつけ、音楽会を更に楽しんで聴けて、まるで自分が主役にならなれた気持ちになります。

奏者の方々のトークも服装の話で盛り上がり、アルパ奏者の上松美香さんの可愛らしい笑顔には、手作りのモチーフ一つ一つを繋ぎ合わせた見事なスカートがピタリでした。ヴァイオリンの奥村愛さんは、アオザイがスレンダーな身体にとても似合っていました。十年ぶりの近藤嘉宏さんのピアノは磨きがかかり力強さが感じられ、耳に覚えのある曲ばかりで、中でも「ツイゴイネルワイゼン」の高度なテクニクにすっかり聴き入っていました。そして、一番興味を引いたのは「アルパ」です。

優しい音色にもかかわらず力強い立体感のある世界に包まれました。更に「コーヒールンバ」の楽器と聞いて、情熱の音色として未だに心に残っています。

また、音楽会は恩師や旧友に会えるのも楽しみの一つです。

(S四十六年卒 高橋 桃子)

一層の絆を

同窓会長 佐藤 せつ (S23年卒)

同窓会の皆様には益々御健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

昨年はショッキングな報道に悲しみと同時に怒りを覚える方も多かったのではないのでしょうか。今年こそは明るいニュースをと誰しもが望んでおられることと思います。

さて過日、小学校、幼稚園、保育園の先生、行政の方々が一堂に会して九里幼稚園で公開保育がおこなわれました。子供達のいきいきとした

活動振りに「時代にふさわしい教育」として参加者みんなが感銘をうけました。

また、昨年の秋にインターネットの同窓会ホームページが開設され、同窓生同士のコミュニケーションが出来るようになりました。

皆様のメッセージを気軽にお寄せいただき楽しいものにし、母校との絆を深めたいものです。どうか投稿いただけますようお願い申し上げます。

(詳しくは本紙六ページを参照ください)

総会報告

6月28日

直江兼続に学ぶ



若い方々が用意万端整えて下さいました。協議事項も滞りなく運びました。

九里茂三先生と前同窓会会長竹田カツ様が共に米寿を迎えられ、拍手喝采の中、お祝いの花束贈呈となりました。研修会では、「直江兼続の素顔」と題して遠藤英先生のご講演を頂きました。今年一月より始まった大河ドラマ「天地人」の主人公であり興味深く拝聴いたしました。出席者の方には遠藤先生ご出版の本を進呈。懇親会では佐藤多恵子さんの詩吟、アトラクションでは吹奏楽部の演奏、長岡洋子さんの踊りと華を添えて下さいました。実のある楽しい会もあつという間に過ぎ、別れを惜しみながらお開きとなりました。(S二十四卒 行方キヨヨ 記)



平成二十年度の同窓会総会は、六月二十八日(土)ホテルサンルート米沢に於て百余名のご出席を頂き和やかに行われました。四と五のつく当番学年の

親子三代 九里です

●高橋 祥子 さん ●高橋智寿子 さん ●高橋 志歩 さん
(旧姓 伊藤 S36年卒) (S58年卒) (H21年卒)



高橋宅は、板戸や障子など旧家のたたずまいを残した趣ある素敵な邸宅でした。その歴史ある調度品に囲まれてお話を伺いました。

おばあさんの祥子さんは三十六年の卒業で、加藤和夫先生が担任だったそうです。在学中に黒金校長先生が亡くなられ、学校が行われた事や、加藤先生が卒業直後に同学年担任の田中チエ子先生とご結婚された事も懐かしく話されていました。三姉妹とも九里に入り、飯豊からの電車通学で、朝早く家を出るのが辛く、特に雨や雪の日は辛かったものの三年間休まず通われたそうです。

お母さんの智寿子さんは五十八年卒業。普通科コースで学ばれ、山形の高等看護学校に進まれ、現在は看護師として活躍です。部活は英文タイプ部でしたが、同時に入っていた華道クラブも楽しかったそうです。

す。英文タイプの顧問・今田先生の息子さんが現在、大病院の医師としてお見えになり一緒に仕事するようになり、偶然の縁に驚きを感じていらつしやいました。智寿子さんは南陽市梨郷からの電車通学で、乗り換えがあり大変だったもののお友達とのおしゃべりは楽しく、他校の生徒とも仲良くなり大人になってから再会し、話が弾んだ事もあったそうです。

今春卒業の志歩さんは、九里卒業のおば様の影響で美容師になりたいと思うようになり、仙台の美容専門学校に進学が決まり、念願の一人暮らしをする事に心躍らせている様子でした。お話を伺い、見渡すと九里を卒業した親戚の方の多いことに驚き、志歩さんが入学したのも偶然ではないように思いました。(S五十九年卒 新井千香代 記)

職場訪問

私は編集者です。主に企業の広告宣伝販売促進のための情報誌制作に携わっています。企画立案し、カメラマン、デザイナー等と一緒に誌面を作り上げていきます。ライターを兼ねることもあり、著名人は野際陽子さん、阿川佐和子さん、有森裕子さん、美川憲一さん等七十人程取材しました。話を伺うのは毎回一時間程ですが、質問が平凡だと答えるも平凡になるため、下

編集者・聞き書きライター 船山 弘子 さん (S52年卒)

ベストな紙面は下準備にあり



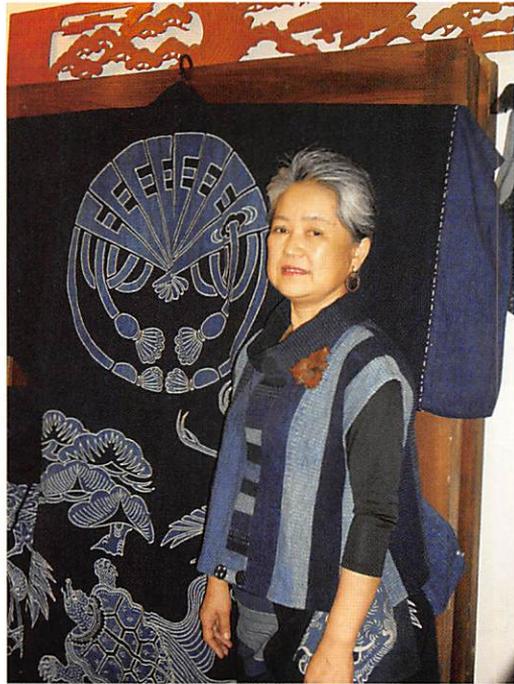
コックピットのような自宅仕事場にて

準備は三日くらいかけます。単行本の場合は、取材、執筆期間が長く、困難な作業のため、眉間にしわがでるのが悩みです。二十代は出版社の月刊誌編集部勤務していましたが、深夜残業は当たり前という激務に心身共にダウン。三十二歳からフリーランスになりました。自宅自分のペースで仕事できる反面、営業も経理も一人でやるので目が回ります。仕事で嬉しいのは、仕事仲間やクライアント(得意先)との信頼関係が実感できるときです。在学中は担任の刈田睦・小林圭一先生にお世話になりました。古典の大野崇先生には生意気な態度をとっていましたが、懐深く受け止めていただき、感謝しきれません。今、元気に仕事できているのは先生から結婚祝いいただいたお茶碗でご飯を食べているおかげかも(?)。

古布刺し子作家 鈴木 満子さん を訪ねて

(旧姓 横山 S41年卒)

新井 千香代 記 (S59年卒)



昔人の技術とデザイン力に惹かれて

九里祭参加 同窓生作品展

同窓生の作品展では「古布母家」を営んでおられます鈴木さんの刺し子、布花。「天地人」に因み紙甲冑、ちぎり絵、アートフラワー、ホビークラフト、書、生花、ミニ盆栽、飯豊支部の皆さんの作品等、力作に目も心も和ませていただきました。「体験コーナー」では、テープのストラップで、かわいい動物を思い思いの色、型で作っておみやげに持ち帰りました。来年は隣室にお茶を用意しましょうとの提案も出ております。懐かしい校舎や、作品、生徒の活躍を足を運んでぜひご覧いただきたいと思えます。皆さんの作品の参加もお待ちしております。
(S四十年卒 寒河江敏子 記)



福島の閑静な住宅街の中にある隠れ家のようなお店に、同窓生の皆さんと一緒に邪魔しました。鈴木さんは小さい頃から布切れでも捨てずに大切に作る家に育ちました。学生の頃自宅の蔵にあった刺し子の前掛けを見つけたことで、その素晴らしい技術とデザインに惹かれたそうです。卒業後は仕事の傍ら先生に付いて織りや染めの勉強をされました。現在は江戸時代のかい巻きや布団地等々それだけでも素晴らしく貴重な古布を使って刺し子で洋服やコートなどを製作されています。また植物の枝や穂の先までも古布を使った花やブローチを作り、骨董品と共に販売しておられます。NHKの趣味関係のテレビに出演され、大阪・名古屋・札幌をはじめ全国で開かれる個展に飛び回る忙しい毎日をお

過ごしています。今年はイギリスの美術館での展示も決まっているそうです。学生時代は遠藤岩根先生が初めて受けたったクラスで、情熱あふれる指導の数々に周りのクラスからも自然と人が集まり笑いが絶えなかったそうです。寮から通っていた為、授業中にこっそりレール編みの内職をして授業料の一部を払われたこともあるそうです。「先生方も分かっていて大目に見てくださっていたのね。」と笑っていらつしゃいました。また、ある先生からプロポーズされ卒業まで続いたなど驚きの話が出たりして大らかな笑いの時間となりました。沢山の作品を拝見し、気が遠くなるような作業の細かさについて「凄い」を連発している私達に「全然凄くなんてないのよ。好きだからやっているだけ。」と静かに微笑ま



私の高校時代

佐藤 雅俊 (H14年卒)

九里学園に新しい風を吹き込んだと思いついてる男子第一期生です。楽しい高校時代を思い出すと数々の出来事や事件がありました。そんな話を友人と一緒に酒の場でしながら盛り上がり、人には言えないような事もあったと振り返っています。

高校時代と言ったら部活動。サッカーの毎日でした。秀人先生から多くの事を学び、仲間と過ごした三年間はかけがえないものでした。この三年間で一番の事件は、合宿中に熱中症で倒れ救急車で運ばれた事です。まさか自分がそんな事になるとは思ってもみませんでした。その後の話を聞くと、救急車の後を秀人先生が車でついてきてくれたんだそうです。そのため、練習後にみんなでプールに入る予定が中止になった事など、本当に迷惑をかけてしまいました。どうもすみませんでした。

九里学園を卒業して、もう七年余りになりました。二十代半ばの社会人です。現在は、かわいくてやんちゃな子ども達に囲まれながら、明星保育園で保育士をしています。時折、上杉公園に散歩に行きつつ、なつかしく母校を見えています。

学生諸君!! 高校生活大いに楽しめ!! 先生方!! 後輩達をよろしく!!

お久しぶりです皆様



小関トシ子先生からのメッセージ

九里学園の高校を退いて三十年、九里幼稚園を辞してからはや二十年の歳月が流れました。という私は一昨年古希を迎えました。その間、仕事を続ける中で、三人の子が育ち、家族も増え、一方では親たちを見送り、四年前に夫が病に倒れる等々、人並みに人生の苦楽を味わった年月でした。思えば、私の人生は九里の皆さまやお仲間、家族等々と大勢の人たちに支えられて来たことか。すべての人たちに感謝あるのみです。

そして、古希を過ぎた今、思うことは年を重ねることもいいなということ。体力知力は衰えるばかり。でも、今だから辿り着ける景色がたくさんあるのです。老いることは下降線だけではなく、これまでの人生の延長なのだ、しみじみ思えるこの頃です。

女性の平均寿命が八十代半ばといえますから、それまで十五年、どこまで行けるかわからないけれど、「老いたるは、なおうるわし」を目指してみたいと思っています。

年のはじめに、気分一新、日々の暮らしをていねいに紡ぐことから始めましょうか。

(二〇〇九・一・一〇 記)



クラブ
しょうかい

ダンス部

地域に貢献できる子どもを育てる

部の名称を『ダンス部』に変更し、ジャンルにとらわれない表現をしていこうと活動しています。三年前から、上杉まつりやイベントなど地域の様々な場で表現する機会をいただき、また定期発表会も今年度で三回目を行うことができました。ダンスは、観ている人に感動を伝えることができる手段の一つです。演技をするたびに、生徒自身がそこから何かを学び、成長しています。地域に根付いて地域で育つ。地域の方々に喜ばれ愛され、そして必要とされる。そんな部に育てていくことを目標に、今日も地味に基礎練習をしています。

(顧問 鈴木 涼子 記)

皆さん年相応の体型に

S43年卒6組



二〇年
十月二十
五日、十
年ぶりに
赤湯温泉で佳子先生はじめ二〇名
出席されました。卒業して四〇年、
高校時代の思い出とそれぞれの人
生を時を忘れ語り合いました。そ
して、懐かしさをかみしめました。
最後に、先生から「皆さん年相応
の体型になりました。無理しない
ように」との言葉に全員納得。再
会を約束して帰路につきました。

(中村 文子 記)

クラス会

アクセスしてみてください



同窓会ホームページ オープン

九里学園の同窓生も二万七千名を超え、北は北海道から南は沖縄まで日本中に、そして、海外にもお住まいになっています。全国の会員の皆様に情報を共有・発信できる場として、「九里学園同窓会ホームページ」がオープンしました。

ホームページでは、情報を受け取るだけでなく、発信することも可能になります。皆様のお住まいの地域の情報、様々な職場・分野で頑張っている同窓生の紹介など、より身近で、タイムリーな情報を公開することで、同窓会活動がますます活発に行われることが期待できます。

年に一度お届けしている同窓会報と共に、皆様のコミュニケーションツールとして活用していただきたいと思えます。まずは、一度覗いてみてください。

(S六十年卒 鈴木 里佳 記)

パソコンアドレス <http://all-kunori.net/>
携帯アドレス <http://all-kunori.net/m/>
投稿は携帯またはパソコンのメール、封書、はがき
でお送り下さい。
(1)メールあて先 dousou@tw.kunori-ed.jp
(2)封書、はがき(表紙の住所をご覧ください)



その名は「フグの会52」

S52年卒4組

オリンピックの年に
集まろう、という事で
始まったクラス会、そ
の名は「フグの会五十
二」。十月四日、三十
年ぶりに出席した私は
会ってすぐわかった人
もいるし、わからなか
った人もいるし、でも
声を聞くと思うい出
しました。どうか全員
元気なままで、次回の
クラス会で会いたいも
のです。斎藤清一先生、
それまでお元気でいて
下さい。

(高橋 有子 記)

同窓会
前関東支部長
占部 五月 さん

御逝去(享年八十九歳)



去る平成二十年四月九日、同窓会関東支部長を長年務められた占部多い様が逝去されました。関東支部長は、昭和六十年から十五年にわたり、同窓会の発展のために尽力されました。有志の親睦会であった関東地区の同窓会を大きい支部として再編成され、母校の八十周年・八十八周年・一〇〇周年には何度も母校に足を運ばれ支部あげて応援して頂きました。心から御冥福をお祈りいたします。

編集後記

いよいよ大河ドラマ「天地人」が始まりました。ご覧になっている方も多いと思います。まだまだ舞台は米沢になりませんが、市内には観光客が増えたように思います。暗いニュースが多く減入りますが、先人を見習い大変なときこそ人々の気持ちを合わせ、乗り切りたいものです。

「オールくのりねっと」ホームページがオープンしました。どうぞご覧下さい。そして自由に携帯電話・パソコンからも投稿して下さい。

今年の記念音楽会は、九月十一日(金)です。創立記念日は九月十三日ですが、この日が日曜日で、昨年と同じく県高校総体の地区大会と重なったため、十一日になります。御了解下さい。

同窓生の集い(総会)は、六月二十七日(土)です。その運営担当は卒業した年が六と七のつく学年(昭和二十六・二十七・三十六・三十七・四十六・四十七・五十六・五十七・平成六・七・十六・十七)です。詳しくは別紙を参照下さり、申込みいただきますよう御案内いたします。

